

# ARTOMO CASUAL Vol.5

姫路市立美術館 友の会の「今」を軽やかに届ける 『あーとも・カジュアル』第5号／2023年夏号

活動／メッセージ ◎開催日／2023年5月9日(火) ◎美術館2階・講堂 ◎出席者数／40名

## これからの姫路のまち、美術館、友の会を見つめる

～2023(令和5)年度 理事会・総会を開催して～

今年の友の会総会は、3年ぶりに対面での開催となりました。昨年度の事業報告・決算の可決にひきつづき、40周年の記念事業や友の会に4つの研究部会を立ち上げるなど、新たな事業計画と予算が承認されました。また、総会に先立つ理事会では、大池慧承(えじょう)さん、小川陽平さんが新しく理事に選任されました。

総会後の「ディレクター&チーフキュレータートークセッション」では、「美術館をもっと開くために」と題して、不動美里館長と新任の鬼本佳代子学芸課長が、お二人のこれまでのミュージアムやアートについての取り組みをもとに、姫路市立美術館のこれからの姿をさまざまな角度から語り合われました。

不動館長からは、自ら立ち上げに関わった「岐阜県現代陶芸美術館」でのロシア・アヴァンギャルドの展覧会で芸術系大学と組んで自ら「展覧会ジャック」を仕掛けたこと、同じく開館準備から携わった「金沢21世紀美術館」での日比野克彦さんの展覧会では明後日朝顔プロジェクトなど、人と人、人とまち、地域と地域の新しい関係を創るアートプロジェクトという「目に見えないもの」や「考え方」を作品として収録した例などの紹介が。アートはまさに市民社会の果実。美術評論家の建島哲(たてはた・あきら)さんの「市民革命の経験がない日本において、美術館は緩慢なる市民革命の場である」、またこれからの美術館は多様な立場の人々を包摂する「救済の館でなければならない」という言葉を引き、焼け野原に残った兵器庫だった赤レンガの建物が市役所になり、40年前に美術館へ生まれ変わったことに姫路市民の叡智があるというお話がありました。

鬼本学芸課長からは、父君が姫路出身であることや大学卒業後は美術館教育に携わってきたこと、前任地の福岡市美術館での「夏休みこども美術館」や「ベビーカーツアー」、ミュージアムウィークでの「こども探検隊」、高齢者向けの「いきヨウヨウ講座」、視覚障害者のための「目で聴くツアー」などの美術館を開く活動とともに、同館のアウトリーチ活動「どこでも美術館」で実施した植物園とのコラボワークショップや在留外国人対象の「やさしい日本語ツアー」など、ワクワクする刺激的な取り組みの紹介がありました。

これからの姫路のまち、美術館、そして友の会の明るく楽しい未来が垣間見えたお二人のトーク。もっともっとお話を聞いていたい気分でしたが、そのあと、谷口学芸員と高瀬学芸員による「春の祭典」展のギャラリートークへと移り、参加した会員のみなさんとともに充実したひとときを過ごせました。(姫路市立美術館 友の会会長 米谷 啓和)



開館40周年記念コレクション展「春の祭典～生きる力を生み出す大地」全所蔵作家311人の作品がずらりと並んだ。  
4月17日プレス内覧会の様子。



中谷 謙二「白い風景―原始の地球―霧の彫刻47789」  
姫路市立美術館前庭、2023年6月3日 ©Fujiko Nakaya  
2023 ©Himeji City Museum of Art  
霧のなかを走りまわる子どもたちの歓声が響く前庭

活動／レポート ◎開催日／2023年5月14日(日) ◎参加者数／37名

## 色とりどりの素材を探す作業が、最高に楽しかった

～ひびのこづえ「ちいさな生きものブローチ作り」に参加して～

ひびのこづえさんのライフワークとも言えるワークショップに、ワクワクしながら参加しました。コロナ禍の2020年に「ほぼ日刊イトイ新聞」にアップされた「なにかをつくる動画」シリーズの#010 ひびのこづえさん「ちいさな生きものブローチを作っちゃおう！」で「ひびのこづえ ちいさな生きもの研究所」を知り、ワークショップのアーカイブが2015年からあることと「ちいさな生きもの研究所 憲章」が在ることを知り、すっかりファンになっていたのです。

＊ ＊ ちいさな生きもの研究所 憲章 ＊ ＊

●自分が想像する、ちいさな生きものを作ります。●研究所にある衣装のはぎれときれいな糸を使います。●ちいさなはぎれが素敵な生きものになるように大切に使います。●みんながあつまるところをいつもきれいに保ちます。●出来た生きものは胸に付けてみんなに見てもらいます。●お互いの生きものを見て意見を交換します。●生まれたちいさな生きものは研究所に写真で登録します。

(ひびのこづえ ちいさな生きもの研究所HPより)

会場にはほぼ一番のりで、こづえさんにご挨拶できました。「素敵なアクセサリーですね」と開口一番ほめてくださったのは、7～8年前に購入して以来お気に入りの、こづえさんデザインのビーズのネックレスでした。

ワークショップで感銘を受けたのは、素材を大切に扱う工夫。布はくるくる巻かれ、一方の端を輪ゴムでとめて立ててあります。参加者は輪ゴムに触れずに必要なだけ布をカットし、また巻いて戻します。針には色とりどりの糸が通っており、1色選んで使い切った後に次の色を選びます。さらに、広告の紙で作られた箱が一人に一つ用意されていて、その箱とハサミ、それから描いた「ちいさな生きもの」の絵を持って欲しい布を選びに行きます。必要なところにスタッフの方がスタンバイ、システムが様々な角度から構築されていて、ひびのさんの眼差しを感じる事ができました。

制作タイムには「使う色まで考えて、しっかり描いておくことが大切」と仰っていたのを意識しながら描きました。絵をもとに色とりどりの素材を探す作業が、最高に楽しかったです。素材は、舞台衣装などを手がけた際の余り生地だと話しておられたので、子どもたちとよく見ていたNHK「にほんごであそぼ」の衣装を頭に浮かべたり、こづえさんの様々なお仕事を想像しながら選びました。自分が想像した生きものが手の中に姿を現す、至福の時間。

自分の作品をみなさんに発表する機会には「ミュージカルの好きな鳥」と紹介しました。こづえさんが「描いた絵に合わせた素材を見つけておられます」と、鳥の胸元に使ったフワフワ素材に触れながら褒めてくださり、とても嬉しかったです。

こづえさんはみなさんの構想段階～試行錯誤の過程を記憶し、制作過程と共に紹介してくださったので、一つ一つの「ちいさな生きもの」がより愛おしく見えました。私の憧れが結実し、ちいさな生きものブローチが手元に。素敵な時間をいただき、感謝しています。(平野由美子/友の会 会員)



参加者の皆さんがワクワクしながら制作された「ちいさな生きもの」ブローチの数々。どんな発想で生まれたのか！聞いてみたいですね。

活動／レポート

## まだ誰も見ぬ未来に向けて...友の会参加3年目の「明後日朝顔プロジェクトin姫路」2013年度に

美術館友の会講座をきっかけに明後日朝顔プロジェクトのタネが姫路に降り立ってから10年。『オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト』のなかで展開された「明後日のアートの学校」町も海も山も寺も城も人もつながるプロジェクト』から大きく拡がり始め、3年目となる今年。現代美術とワークショップの研究ユニット・meijiのみなさんから始まった「明後日朝顔プロジェクトin姫路」は、「関係性の継続」を願って友の会でも2021年から参加しています。現在、同プロジェクトは約50箇所に拡張中。日に日に同志や知り合いが増え続け、関わっていなければ体験できなかった出会いや思い出が山のようにあります。私自身のことで言えば、少なくとも年に10回以上上島へ渡ったり、書寫山圓教寺へ登ることはなかったはず。家島や野里をはじめ、地域の方々との出会いからこれまでの点と点が、この美術館につながってきていると感じています。

友の会の活動とは他に2022年は、「姫路駅前保育園 ニコパランド」のみなさんが「卒園生が集まる同窓会イベントにしよう」と参加。また、書寫山圓教寺では独自のプロジェクト「根切り式」と圓教寺の護摩供の一環で摩尼殿で育った明後日朝顔の蔓を束ねた「明後日宝珠束」をお供えし、仏教の教えと明後日朝顔のタネの中に次世代へのメッセージが見出されるなど、特別な1年となりました。

友の会が同プロジェクトに参加して3年目の今年、ボランティアな地域活動やイベントが盛んな姫路で、明後日朝顔プロジェクトはどんな物語を紡ぐのか？『アートは社会の役に立たなければならない』『アートはそれを見つけた貴方の心の中にある』という日比野克彦先生の言葉が私の心に響きます。まだ誰も見ぬ未来に向けて、自分なりに少しワクワクできるよう、完成形をもち、拡がりや出会いを楽しみながら続けていこうと思っています。美術館では、全国初の取り組みとして、1年目と2年目の蔓を残し、その上を3年目の蔓が伝っていく姿を見守ります。ぜひ一緒に、美術館を、アートを、自分自身を、楽しみ尽くしましょう！（八木章徳／友の会企画室、明後日朝顔プロジェクトin姫路 班長）

### \*\*\*「明後日朝顔プロジェクトin姫路」活動メンバー募集中！\*\*\*

◎活動期間／毎年5月ごろから11月ごろまで

美術館の前庭で、苗植え、毎日朝夕の水やりや摘芯、摘蕾、花殻摘み、種の収穫など成長に応じた手しごとをご一緒に！

お申し込み・お問い合わせは...友の会(Mail: [artomo.online@gmail.com](mailto:artomo.online@gmail.com))まで



5月27日 3年目の明後日朝顔苗植え式を開催。全国各地から集まった苗を飛び入りゲスト、姫路生花卸売場の姫野聖花ちゃんも一緒に、友の会で植えました。



水やりをしながら、日々大きくなる朝顔の様子を楽しみましょう。活動メンバー 募集中！

## 特集／コラム

### 「明後日朝顔プロジェクト」に参加して～子育てのような気持ちで～

2022年度、市立美術館の「明後日朝顔プロジェクト」に参加しました。姫路と埼玉を行ったり来たりする生活を送っていますので、姫路滞在中はできるだけ種まき、水やり、収穫...等に参加しました。また、「姫路」の種をいただきましたので、住んでいる埼玉の団地にも、棚を作り、紐を垂らして、団地の植栽委員会の方のお手伝いをいただきながら種を蒔きました。種を蒔いたところは、日当たりは良いのですが、保水力の弱い土壌のため、朝夕の水やりが大変でしたが、その甲斐あって、順調にツルが伸び、最初の一輪が咲いた時は何とも言えない気持ちになりました。それからは朝の水やりの時、何輪咲いているかを数えるのが楽しみになりました。強いて言うなら、子育てをしている時のような気持ちでしょうか。

1年目の途中から「明後日朝顔プロジェクト」について考えた時、なぜ「明後日」なのか、なぜ「朝顔」なのか、そしてアートとのつながりは？という疑問がわいてきました。

「朝顔」は、日比野克彦先生が現代アートのイベントに参加されるにあたり、「地元の人たちと一緒に作品を作り上げたい」という希望を持って現地に行ったところ、地元の方々の心遣いに感動し、「一緒に花を育てることにしよう」というプランを思いついたもの。展覧会は夏、であれば「朝顔」がいい。「明後日」は、日比野先生のお話では「昨日(去年、花を育てた時)」の記憶が詰まった種を「今日」咲かせると「明日」の種が生まれ、種は「明後日」まで、人々の想像力を運んでくれる。種にこめられた「循環」や「持続性」、その思いを伝えたい...とのこと。

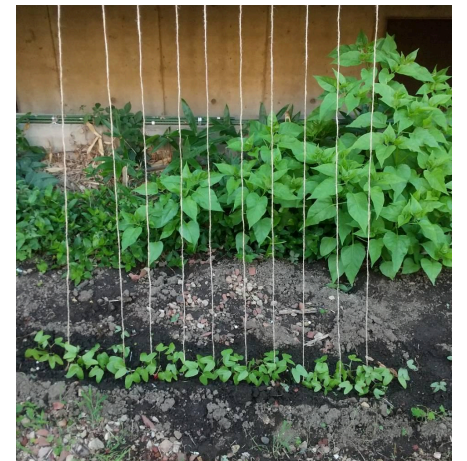
明後日朝顔の咲き誇った状態を見ると、なんとなくアートを実感できますが、大事なことはその種の収穫。種の持つ記憶。種蒔きからのいろいろな作業を共にしてきた人と人とのつながり、人と地域とのつながりといったことが「アート」のようです。生活の中に「アート」を見つけたら、取り入れたりすることにより、日々の生活をより豊かに充実したものにする事ができれば、素晴らしいことだと思います。

今年も、昨年秋に埼玉で収穫した「姫路」の種を、マンション1階の専用庭に地植えました。賑やかに芽がでています。姫路には、友の会からいただいた種を地植えました。こちらも芽が元気に出ています。これからが楽しみです。

(大野和男／友の会 企画室)



2022年 埼玉の団地の共同庭で咲いた朝顔



今年もたくさんの芽が出た自宅の庭

### 2023年度 友の会 会員募集中！

ご一緒に、思い思いに、アートを楽しみませんか。様々な特典がありますので、展覧会や各種講座などにお越しの際は会員証をご提示ください。

◎会員期間／2023年4月1日～2024年3月31日

◎年会費／普通会員...3,000円、学生会員...1,500円 ※10月1日以降ご入会の場合は半額

◎主な特典①常設展、企画展の無料観覧(何度でもご覧いただけます) ②会員限定イベントのご案内 ③図録の割引購入 ④カフェでの飲食が2割引に ⑤姫路文学館、兵庫県立美術館、神戸市立博物館が団体割引料金に ※2023年度は、書寫山圓教寺でのチームラボ展も観覧無料！

お問い合わせは...姫路市立美術館友の会(Tel: 079-222-2288)まで



姫路市立美術館 友の会ニュースレター「ARTOMO CASUAL」第5号／2023夏号

発行日...2023年7月10日

発行者...姫路市立美術館友の会 企画室(姫路市立美術館内)

Mail...[artomo.online@gmail.com](mailto:artomo.online@gmail.com) 最新情報...<https://m.facebook.com/artomo.online/>

ARTOMOとは?...姫路市立美術館 友の会・ARTOMO(あーとも)は、美術館を愛し、オープン&日常的にアートに親しむためのコミュニティ。この「ARTOMO CASUAL」では、友の会の様々な取り組みを楽しみながらお届けします。

本紙の無断転載を禁じます。All rights reserved. (C) TOMONOKAI, Himeji City Museum of Art, 2023 (C) The Artists and the Authors, 2023

